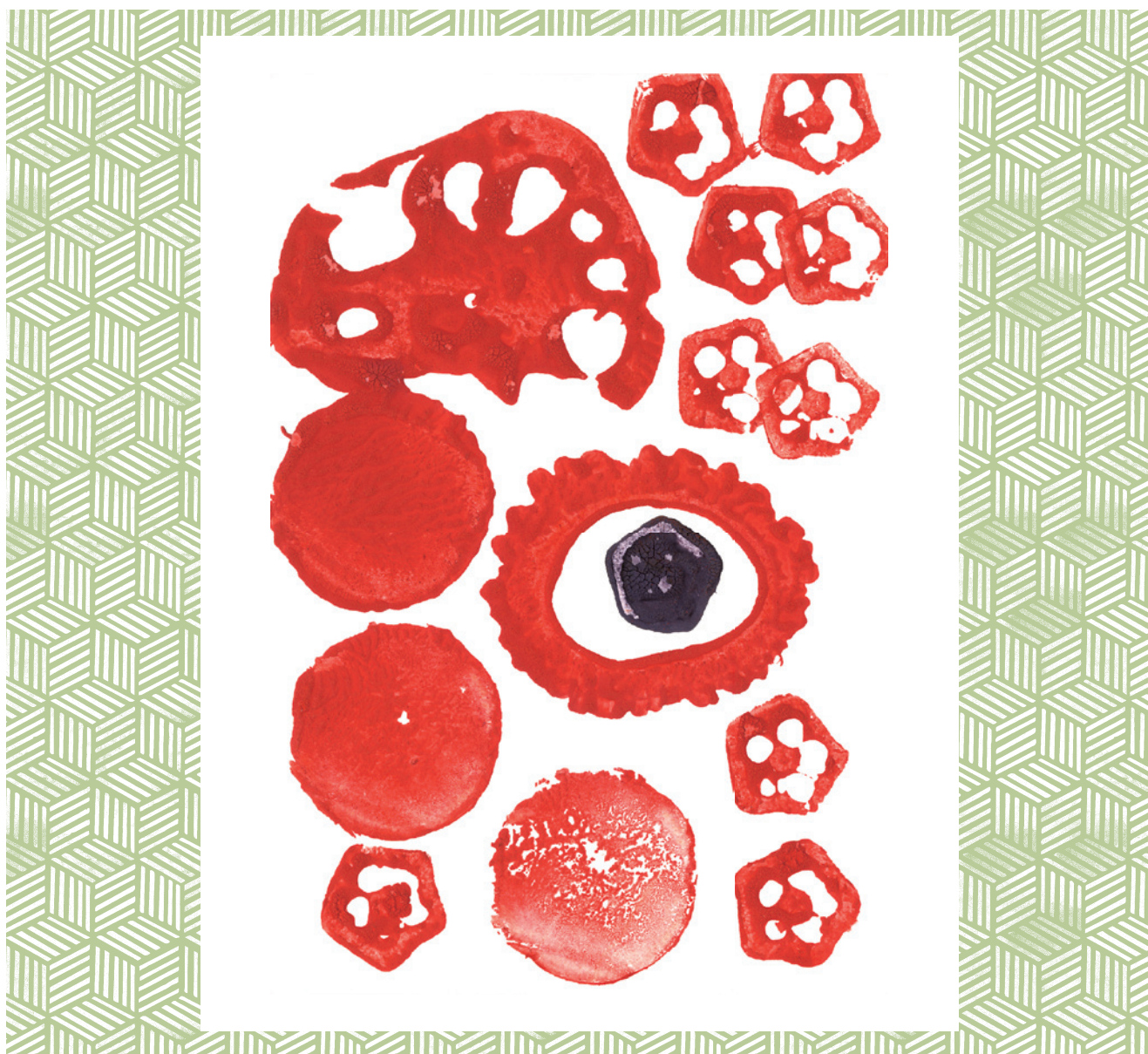




ゆたか福祉会キャラクター  
ゆたかめくんとみらいちゃん

# 2

## 障害者の ゆたかな **未来** をめざして



「ゴーヤ、オクラ、さつまいも、レンコン ペタペタした」リサイクルみなみ作業所 浅野 凌さん ※紹介が10ページにあります。

### CONTENTS

- ▶ 新しい年の幕開けです ..... P2～5
- ▶ 私たち「成人式」を迎えました！ ..... P11～12

2021年2月10日 毎月1回10日発行 一部100円(法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3  
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・  
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

# 2021年の新しい年の幕開けです。

# うれしいことがありますように!!



## みらいろ

### みらいろ神社と新年会



1月4日(月)に新年会を開催しました。仕事始めの新年会です。新型コロナウイルスの影響で室内での飲食が見送りととなり、当初予定していた乾杯はやめにしました。会場は食堂(定員48名)とし、なかま11名と職員5名の16名が参加。密にならないように、1テーブル4名のところを最大2名で、一方方向に座り、人と人との間にアクリル板を設置し、窓は常に開けて換気するなど対策を取りました。

昨年の新年会は車で出かけ、豊国神社に参拝をしました。今年は施設内で、仲間たちが楽しく過ごせるお正月らしい取り組みは何が良いか考え、大きな紙に鳥居の絵を描き、「みらいろ神社」を作りました。お参りするとすっきりお正月気分です。鳥居を見ると自然と手を合わせ、お参りする姿が印象的でした。次にみんなで福笑いをし、一年の目標を色紙に書いて飾りました。

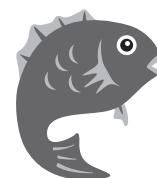
最後に自治会役員の「コロナにならないよう、体調管理や事故・怪我がないよう一年間頑張ろう!」というエールで締めくくりました。

小出明弘



## リサイクル港作業所

### 試行錯誤しながらの新年会



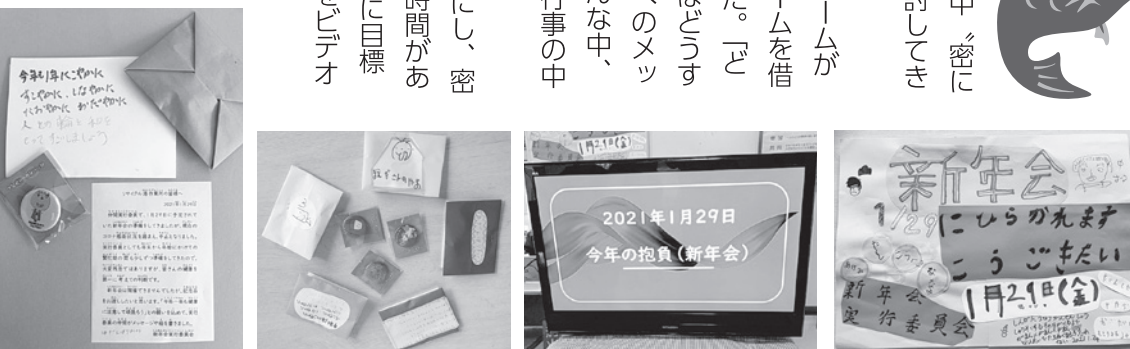
12月初旬より新年会実行委員会では、コロナ禍の中、密にならないよう安全に、新年会が実施できるのかを検討してきました。

「ぶれあいまつりの時、こども広場でやっていたゲームがいいんじゃない!」との意見が出され、業者からゲームを借りて、少人数のグループでの取り組みを提案しました。「どのゲームにしようか」「ポスターを作ろう!」「景品はどうする?」等話を話し合い、実行委員のメンバーでなかまへのメッセージや絵も書き、一つ一つ準備を進めました。そんな中、新型コロナウイルスの急激な感染拡大を踏まえて、行事の中止が決定されました。

新年会は中止になりましたが、参加賞は渡すことにし、密にならないように休憩時間や昼食後など、それぞれ時間がある時に準備しました。また、「コロナに負けないように目標を持って一年頑張ろう!」の思いから、今年の抱負をビデオで撮影し、休憩時間に観ていただきました。

出来なかった事はたくさんありますが、その中でも皆で意見を出し合い、考えた今年の新年会の形です。いつ終息するかまだまだ不透明ですが、以前のような日常が戻り行事が再開できる日が待ち遠しいです。

リサイクル港作業所新年会実行委員会



つゆはし作業所

「今年も一年ウツシツシ〜(牛)と、行きましよう!!」



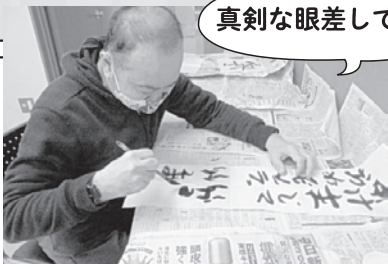
皆さん、明けましておめでとうございます。昨年は皆さんにとってはとうとう1年でしたでしょうか？私達つゆはし作業所では、新型コロナウイルス感染症の影響で生活スタイルも仕事も大きく変わった1年でした。

「班の垣根を越えて皆で集まって行事を楽しむ」という事がつゆはし作業所の当たり前の日常風景でしたが、感染症の威力が日を増していく毎に作業所での生活も「制約」がどんどん増えていきました。自宅でも、ホームでも作業所でも、とにかく皆不自由を強いられてしまう事にストレスや不安も募る一方であると思います。

前回の広報12月号でもお話しした事ですが、「コロナウイルスだから出来ないではなく、コロナウイルスでも出来る」という取り組みの在り方を模索して、今回の「2021年 年初めの会」も班毎に分かれて、十分な対策・対応の中で書き初めやおみくじ引きなどをして皆で過ごしました。書き初めを見て感じて感じた事は、皆さんとにかく前向きに明るい言葉が並び、いつもと変わらない笑顔がそこにありました。

感染症の影響で「ソーシャルディスタンスを！」と言わざるを得ない状況の中ですが、仲間も職員も「心の距離」は離れずに、いつも温かい気持ちと笑顔でいたいと思えます😊

服部 麻由奈



真剣な眼差しで…



よっしゃー!!  
今年も頑張るぞ!!



今年の運命や  
いかに…(\*ω\*)



皆の福笑いが  
玄関先でお出迎え～!!

グループハウスなぐら “一年を元気に”の願いをこめて



グループハウスなぐらは、身体に障害のある方が利用されている入所施設です。介護度が高い方も多く、新型コロナウイルスに感染した場合、重症化リスクの高い方が多くいらっしゃいます。

全国的な感染拡大の中、ご家族との面会や年末年始の家庭帰省なども行えず、利用者の皆さんは、それぞれ辛い思いを抱えながらの年明けとなりました。「年末年始は帰れるのでは？」と期待していた方も多く、悲しそうな表情をされていました。

そんな中、「少しでも楽しんでもらえるように」と、日中のグループごとで新年会を行いました。例年であれば近くの神社へ初詣に行っていますが、それも自粛しましたので、職員が神社を手作りしてお参りしてもらいました。

家族の皆さんからは、頑張っている利用者の皆さんを元気づけようと、たくさんのお菓子やゼリーなどを送っていただきましたので、新年会で食べさせていただきました。職員も出し物をしたり、みんなで福笑いをしたり、すごろくをしたりと楽しみました。

新型コロナウイルス感染防止のために自粛が続くこういう時期だからこそ、新年会、初詣という年の初めの特別な行事を通じて、「またこの一年、元気に過ごしていただく活力につながってほしい」と心から願っています。

荒川 元仁



第2 ゆたか希望の家

ハウスで迎えた新年会

2021年、コロナ禍の新春。家庭帰省も出  
来ず、初詣も行けず、新年会もみんなが集まって  
お祝いする事は叶いませんでしたが、代わりに、  
それぞれのハウスで楽しめるよう工夫しながらの  
実施となりました。

年末から塗り溜めた新年の絵でハウスを飾り、  
牛のカードに新年の抱負を書いていると、遠くか  
らお囃子が…。ハウスの玄関からひょっこり顔を  
出したのは獅子舞です。初めて見た利用者さんも  
多かったようで、面白がる方もいれば、知らん顔  
する方、逃げたり、怒ったりする方もみえました  
が、中に入っているのが職員と分かると安心して  
いました。一年の健康を願って獅子に囃んでもら  
い、おみくじで当たってお菓子をもらって嬉しそ  
うでした。

次にハウスにやってきたのは大きな鏡もちの  
ゲーム。みかんにボールを命中させると、お餅が  
パカッと割れてお花が飛び出します。なかなか難  
しく、集中して楽しんでみえました。

お昼からは、お正月や冬の歌をたくさん歌い、  
「春よ来い」でコロナの終息を願いました。恒例  
の餅つきも出来ませんでした。農耕班が育て  
た小豆を使ったぜんざいを美味しくいただきました。  
長い自粛生活の中、新春の明るい雰囲気が高  
ちたひと時となりました。

宇都宮 朋子



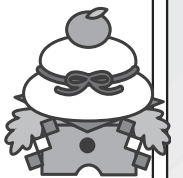
お手製のメダル!



今年は年男です!



初めての獅子舞に  
興味津々!



デイサービスなぐら

「コロナに負けない日常生活」

2021年、新春を迎え、昨年から引き続きコロナに悩まされている  
日常ですが、利用者は体調を崩される方も少なく、元気にデイサービスを  
利用していただいています。

衛生に気を配り、検温、消毒をまめにし、机にパーテーションを立てて、  
一人一人の場所を確保する工夫を行っていましたが、利用者にとっては窮  
屈な思いをさせています。「何だか、うっとうしいなあ」「慣れればいいかも」  
などの言葉も最初のころは漏れてきていましたが、今では皆さん協力して  
くださっています。

そんな中の12月の取り組みでは、お正月に向けて  
の干支飾り、丑の置物を創作しました。プラスチック  
の入れ物に和紙を貼り、耳や角、目、鼻、口を貼  
りつけました。完成品を並べてみると、思い思いの  
顔をした丑の置物が出来上がり、ご自分の作品を手  
に取り満足している方、笑っている方と様々でした  
が、皆さんとても嬉しそうでした。

また利用者のかくし芸では、ひょっこり踊りも披  
露され「笑顔あふれる日々になりますように」と心  
から祈りました。

新年早々は、福笑い大会をしました。一人一人タ  
オルで目隠しをして「火男」「おかめ」「大黒様」と  
3パターンの福笑をしました。それは面白い顔が  
並び、皆さん大笑いを楽しいときを過ごしました。

本年も昨年同様、皆さんが元気でデイサービス  
を利用できるよう、コロナ対策に全集中で頑張ってい  
きますのでよろしくお願ひします。

後藤 正子



# キラリンとーぷ便り「キラリン」発行の思い

2015年9月より年3回、福祉村の広報紙「キラリン」の発行を行っています。発行部数約2,200部。「地域との交流を深めたい」という思いで始まり、設楽町住民や関係機関など福祉村にかかわる皆さんへ広く配布をしています。

福祉村の活動や地域との関わり、利用者や職員の紹介はもとより、地元の方にも原稿を依頼して率直な“声”を掲載しています。福祉村が地域に根差した存在になるよう、広報紙の発行を続けていきたいです。

設楽福祉村キラリンとーぷ便り



# キラリン


(福) ゆたか福祉会  
2021年1月1日発行  
設楽福祉村  
キラリンとーぷ  
Vol. 17

〒441-2432 北設楽郡設楽町東納庫字松山6-2.3 Tel:0536-65-0370 Fax:0536-65-0377

大久保巳司さんの短歌と俳句  
(グループハウスなぐら)

標高が  
六百越える村に来て  
月すっぴんと なうて輝く

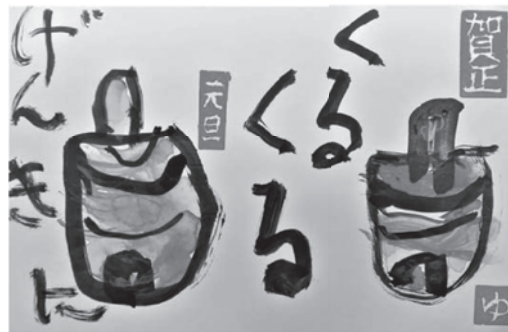
同期より  
届さし賀状  
やっとかめ



**新年のご挨拶**

新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健康やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。地域の皆さまのご支援のもと、事業を展開できますことに改めて御礼申し上げます。結びに、利用者さんの趣味の活動から、新年のお祝いに作品のご紹介をさせていただきます。本年が皆さまにとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。

藤野豊さんの絵手紙「こま」  
(第2ゆたか希望の家)



**堀昌彦さんが傘寿を迎えられました**

堀昌彦さんは、昭和15年に名古屋市中で生まれて、昨年11月に80歳の傘寿を迎えられました。昭和43年に開所した「ゆたか作業所」を無認可のころから利用し、ゆたか福祉会の歴史と共に歩まれてきました。作業所時代には、仕事はもちろん自治会やソフトボールチームにも活発に参加してこられました。

平成10年、設楽町に「キラリンとーぷ」が開所となり、静かな環境を望まれ入所されました。長年クリーニング班に所属をされて、「今日も会社で頑張る」と仕事に励まれてきましたが、傘寿を迎えた今は散歩やレクリエーションに楽しく取り組んでみえます。

今一番の楽しみは、名古屋にお住いの弟さんが面会に訪ねてこられることです。これからも元気に年を重ねていただきたいと思えます。

# 高齢期の 障害者家族の生活問題と社会的支援

## 第2回

### 障害者家族の高齢化問題への着眼

#### ゆたか福祉会で調査を行う意義

前回は、私自身が障害者家族の高齢化に関心を寄せたきっかけとなった事象について書かせていただきました。高齢化に伴う生活問題を把握するには、当事者・家族・専門職における問題認識の異同を考えることが重要と考えました。そこで、ぜひゆたか福祉会と一緒に調査を実施したいと考えたのは、第一には設立50年の歴史ある大きな法人ということが多様な年齢層の方が多様な形態の暮らし方をされていること、二つには入所施設があるということもありターミナルの実践などもされているということ（ターミナル実践をされているかどうかは最後まで託せるかどうかは、法人によって考え方が大きく異なります）、第三、そして最も重要なのは私たち（今回は、障害者家族の生活問題について長らく一緒に研究を行ってきた藤原里佐北星学園短期大学部教授と共同で調査を行いました）と問題意識を共有していただける現場であったということです。今回の調査については、ゆたか福祉会の今後の方針を考えるうえでも重要と位置付けていただき、職員の方々は調査票の作成から配布、そして入力まで多大なるご尽力をいただきました。何より、（おそろしく多くの）法人にとっては、当事者や家族の率直な意見を集めるというのは、大事だけど耳が痛い内容も含まれるので、躊躇されることもある

かと思いますが、ゆたか福祉会からは「何を聞いてもらっても大丈夫」ということで質問内容なども特に制限されることはありませんでした。また、今回のように結果についても報告する機会をいただき、本当に懐の深さを感じます。

このように法人の全面的な協力をいただき、本調査においては、ゆたか福祉会の障害サービスを利用して全ケース578名の方を対象とさせていただき、当事者311名（53.8%）、家族129名（22.3%）、職員451名（78.0%）の方から回答を得ることが出来ました。本結果を日本における障害者家族の高齢化に伴う生活問題の全体像と位置付けることはできませんが、他地域や他法人でも共有してもらえそうな一般化できる結果も多く含まれていると思います。

#### 家族の限界に伴う暮らしの場の移行

今回、回答していただいた方から見えてくる家族の高齢化と暮らしの場の課題について述べます。各暮らしの場の障害者本人の平均年齢は、家族同居が36.4歳、グループホーム（以下、GH）が51.3歳、入所施設が50.2歳となりました。

また各暮らしの場の世帯類型は、【表1】に示したとおりです。特徴としては、家族同居と比べて、

【表1】暮らしの場別の世帯類型・平均世帯人員数】

	両親世帯	単親世帯	きょうだい世帯	その他	合計	平均世帯人員数
家族同居	58.3(74)	35.4(45)	4.7(6)	1.6(2)	100.0(127)	2.4
GH	37.3(22)	44.1(26)	18.6(11)	0.0(0)	100.0(59)	1.97
入所施設	39.1(18)	43.5(20)	17.4(8)	0.0(0)	100.0(46)	1.87





佛教大学  
田中 智子



GH、入所施設では「両親世帯」が20ポイントぐら  
い低くなっており、代わりに増えるのは、「単親世帯」  
「きょうだい世帯」ということです。またそれに関連  
して、同居家族が何人かということを表す「平均世帯  
人員数」も、家族同居では2人であるのに対し、GH  
や入所施設利用者の場合は、2人を切っています。つ  
まり、現在の暮らしの場の移行は、親が高齢化し、中  
には父や母のどちらかが亡くなる場合も含め、家族  
の中でケアの担い手が少なくなっているから行われて  
いるというところが見取れます。また、障害者のケアに最  
も責任を持つ人（本連載では、「第1ケアラー」と表  
します）については、【表2】に示したとおりで、家  
族同居の場合は、「母親」というケースが7割を超え  
るのに対して、GHや入所施設の場合では、約15ポ  
イント下がり、代わりに「きょうだい」や「成年後見  
人」、「不在」というケースが増えます。

### 自立をめぐる理想と現実

最近では、親が元気なうちに暮らしの場の移行を  
行ない、親子がそれぞれの暮らしを築きながら交流を  
するというのが理想と考える人たちも出てくるよう  
になり、専門家の間でもそれが良いとする発言もされ  
ようになってきました。しかし、現実には、暮らしの  
場に関わる社会資源が不足しており、希望するすべて  
の人にそのような機会を提供するのは難しい状況にあ  
ります。障害の有無に関わらず子育てをする際に、先  
輩のお母さんたちの生き方というのは、「このときこ  
うしたら良いんだな」とか「私だったらこうするかな」

ということを考えるうえで非常に参考になるものです。  
多くの療育施設や学校などでは、子育ての悩みや進路  
などに関して、先輩のお母さんの話を聴く勉強会が多  
く開かれています。しかし、暮らしの場の移行につい  
ては、希望というより必要に迫られてというのが現実  
なので、暮らしの場の移行のタイミングをどのように  
考えれば良いのか、移行した後の親子双方の生活はど  
のようなものなのか等に関するお手本が身近にない  
こともあり、不安を抱えている方が多くいるのが現状  
だと思っています。

埼玉では、約1400人の待機者がいる中で入所  
施設づくり運動を行ない2019年に3つの入所施  
設が新たに設立されるという画期的なことがありま  
した。その新たに設立された入所施設を子どもさん  
が利用されることになった母親にお話を伺った際に、  
「子どもの入所が決まって嬉しかったけど、その喜び  
を表現することは出来なかった。なぜなら一緒に運動  
してきたメンバーの中では、入所できなかった人の方  
が多かったから」と言われていました。そして、「こ  
れからもすべての希望者が入所できるまで運動を頑  
張ります」と続けられました。子どもの自立のための  
社会資源をつくるために親が頑張らないといけない  
なんて、ようやく決まった入所を皆で喜べないなんて、  
わが子は入所してもまだまだ運動を続けなければな  
らないなんて…このことにも日本における障害者ケア  
の第一義的責任は家族にあるということが象徴されて  
いると思います。

【表2 暮らしの場別の第1ケアラー】

	母	父	きょうだい	その他の 家族	成年後見人	不在	合計
家族同居	70.5(153)	11.5(25)	11.1(24)	4.1(9)	0.0(0)	2.8(6)	100.0(217)
GH	53.1(52)	12.2(12)	28.6(28)	1.0(1)	1.0(1)	4.1(4)	100.0(98)
入所施設	55.7(34)	8.2(5)	21.3(13)	0.0(0)	6.6(4)	8.2(5)	100.0(61)

# きょうざれん愛知支部の取り組み

## 名古屋市行政懇談会開催

昨年10月29日(木)に、きょうざれん愛知支部(略称・あいざれん)と名古屋市との行政懇談会が行われました。例年行われている名古屋市との行政懇談会は、障害当事者、家族、職員、関係者の要望、願いを直接行政に訴える事ができる大事な機会となっています。

今年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、懇談会自体の開催についても、実施するかどうかの判断に迷う所ではありましたが、「こうした危機だからこそ、実施できる形を模索しながら開催していこう」という事で、初めてのオンラインによる懇談会を実施しました。

例年通り、前半は「やろまい会」(きょうざれん愛知支部に組織された障害当事者の会)との懇談、後半は、家族、職員との懇談の2部構成で行われました。代表者のみの参加となりましたが、オンラインでは45事業所の職員、仲間、家族が参加しました。

「やろまい会」との懇談では、「コロナ禍の中、仕事の減少によって工賃が下がった」「外出など出来なくなり、仲間たちのストレスが増えている」等の切実な要望も多く出されました。

2部の家族、職員からの要望では、この間、切り下げられてきている報酬について、名古屋市独自の補助金や加算制度の充実に対する要望が出されました。特にコロナ禍の中、障害を持つ方、家族がコロナ陽性となった場合の迅速なPCR検査や、入院等の医療体制の整備についての要望が出されました。

名古屋市からは「皆さんからの切実な声をどう施策に活かしていくのか検討していきたい。コロナ対応についても愛知県とも協力して安心できる体制を整備していきたい」との回答がありました。厳しい状況が社会に広がっている中で、一つの声を大切にして要望を発信していく事を、今後にも大事にしていきたいと思えます。



## キックオフ集会を開催

また、昨年11月からは「きょうざれん第44回国会請願署名・募金運動」がスタートしました。第43次では28年続いてきた署名数が全国で100万筆を割ってしまう事態となり、ゆたか福祉会においても42次の28,071筆を3,000筆以上回る24,831筆という結果となりました。

こうしたなかで「第44次署名では、コロナ禍だからこそ運動を前進させていこう」という想いで、12月3日に各事業所の担当者に集まってもらい、署名学習や意気込みについての話し合いの場をもちました。

請願署名は障害のある人、家族、関係者の願い、声が直接、請願項目に示されています。署名を集める事は、私たちの声を社会に広く届ける活動と言えます。人と人とのつながりが断ち切られかねないコロナ禍において、運動方法を模索しながら署名運動を広げる事が、私たちが大事にしてきた「想いを広げる、つながる」運動に繋がっていくと信じて、取り組んでいきたいと思えます。

ライフサポートゆたか

きょうざれん愛知支部事務局長

今治 信一郎





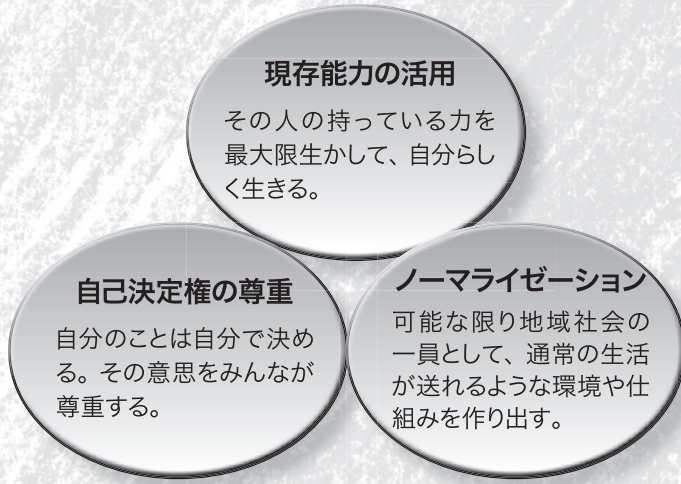
# 障害者の「親なきあと」問題と成年後見制度

## 第2回 成年後見制度の概要(その1)

2000年に介護保険や障害者福祉サービスの利用にあたって、契約制度が導入されました。そのため、自分で判断することが困難な認知症の高齢者や障害のある方をサポートするための仕組みが作られました。それが成年後見制度です。

### ◆成年後見制度の3つの理念

現在の成年後見制度については、図のような理念が示されています。



この3つの理念を「本人の保護」に調和させることが制度の趣旨とされています。

### ◆成年後見制度の3つの類型

成年後見制度も、当初は財産管理やサービス契約の代理といった財産保護の側面が重視されていましたが、20年が経過し、生活全般における身上監護の側面も重視されるようになってきています。どうすれば障害者本人の意思が反映された日常生活や社会生活が実現できるかに目が向けられるようになってきたと思われれます。

法定成年後見制度の手続は、「家庭裁判所への審判申立、成年後見人の選定、審判の確定、東京法務局への登記」という流れで成年後見人等が選任されます。選任された成年後見人等は代理権および同意権・取消権といった法定の権限が与えられ、それを行って成年後見人等の権利を擁護したり、財産を保護することになります。

被後見人等の判断能力の状況に応じて、本人への支援パターンが変わることになります。それが「後見」「保佐」「補助」という3つの類型で、それぞれの類型に応じて、本人自らができる行為や後見人が有する権限が、以下の表のように違ってきます。

成年後見もやい事務局

	後見	保佐	補助
対象者	常時判断能力の欠けた状態の人	判断能力が著しく不十分な人	判断能力が不十分な人
同意権の範囲	なし(被後見人には判断能力がないので、後見人が同意をしてもその通りの行為をできるとは限らないため)	借金や相続など民法に規定された財産に関する重要な行為	左記の行為の中で、申立の範囲内で家裁が定める財産に関する行為(本人同意が必要)
取消権の範囲	日用品の買物など、日常生活に関する行為を除くすべての行為。	同上	同上
代理権の範囲	財産に関する全ての法律行為	申立の範囲内で家庭裁判所が定める「特定の法律行為」。本人の同意が必要。	

..... お気軽にご相談下さい。.....

NPO 法人成年後見もやい 電話：052-746-9395  
メール：koukenmoyai@hi3.enjoy.ne.jp



12月

- 1日(火) 2020年度  
正規採用職員「中間研修」
- 3日(木) 食と健康推進委員会
- 4日(金) 3法人交流研修会
- 5日(土) 評議員会
- 12日(土) 2021年度「内定者交流会」
- 13日(日) 強度行動障害者支援者養成講座  
「基礎研修」
- 16日(水) 主任研修
- 20日(日) 強度行動障害者支援者養成講座  
「基礎研修」
- 21日(月) 研修部会議
- 23日(水) 2020援助担当者・SV合同会議/  
所長会議
- 25日(金) 広報・ホームページ編集委員会

賛助会員新規加入者・更新者(芳名一覽)

(12月3日～12月28日手続き分) 順不同敬称略

高木 眞美	西野 裕之	加藤 禎男	佐野 隆文	早川 剛史	河本ふじ江	清水 理師	岩崎 正夫	岡安八重子	(株)名南事務所	東海ニチユ(株)	あすなる園
丹羽 幸吉	鈴木 鐵也	成田健一郎	伊藤 勝久	星屋 政司	内山 春枝	廣島 和枝	松島 時子	安田 訓明	有限会社 岩本工務店	メカノス(株)港営業所	(株)想設計
篠田侑右子	宮川 統子	大野 俊秀	石崎 満	金原 匡志	岩崎 武利	水田 好貴	谷川 修				

※利用者・保護者・職員の皆様さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

表紙の作者紹介

「ゴーヤ、オクラ、さつまいも、レンコン ペタペタした」

リサイクルみなみ作業所 浅野 凌さん

地域活動支援センターのプログラムに参加して“野菜でハンコ”を作りました。大好きな色で大好きな野菜をつかって、紙いっぱいに押ししました。「チョンやった。楽しかったです」と、その時の様子をジェスチャー付きで教えてくださいました。服も傘もオレンジ色で、一目で好きな色分かるほどです。たくさんのサービスを利用され、忙しくも充実した毎日です。

作業所に入って、もうすぐ5年目になります。手のひらにタコができるほど、キャップを素早くはずす神業はみんなを圧倒します。今では新たな現場にもチャレンジしています。

無邪気で愛されキャラの凌さんが、これからも色々なカラーを見せてくれることを期待しています。



広報・457号

2021年2月号(2021年2月10日発行)

定価1部100円

法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協会会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協会会費 = 年間1口6,000円、  
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行	柴田支店	普通預金 291-884
・中京銀行	鳴海支店	普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会



# わたしたち 成人式を迎えました

## ゆたか作業所

鬼頭 一肇さん



### 大人としての第一歩！ ～洗浄チームの主人公に～

南養護学校を卒業されて2年、「きっちん Yutaka」の洗浄チームで、食器洗いや片付けの作業に取り組んでいます。いつもニコニコ、大好きな仮面ライダーやウルトラマンの世界に入られながら、作業所での生活を楽しまれています。興味のないことには“我関せず”、戦隊物や妖怪など興味のあることには目がキラリ、本の中に入り込んでいる姿や体でリズムをとりながら楽しまれている姿は、その場を和ませてくださっています。



新成人となられ、いよいよ大人のなかまです。お仕事、そしていろいろなことに挑戦して、素敵な大人になっていただきたいと思います。

藤橋 はるか 遥佳さん



### 私が頑張らないと ～下処理(切菜)チームのエースに～

いつもニコニコ、笑顔が素敵な藤橋さん。地域の成人式に出席され、作業所に晴れ着姿を見せに来てくださいました。成人となられた喜びが笑顔いっぱいにあふれていました。作業所にこられた当初は、緊張からなかなか現場に入れないことが続きましたが、今ではお休みもほとんどなく「きっちん Yutaka」の下処理チームの一員として頑張られています。



他のなかまがお休みのときは「私が頑張らないと」と、仕事に対する意気込みや責任感も強く、とても頼もしい存在になられています。時々お茶目な姿も見せてくださる藤橋さん、これからもその素敵な笑顔を絶やさず、更なる活躍を期待しています。

中畑 未来さん



### できる喜びが次への新たなチャレンジに

「にぎわい現場」で布折りの仕事を中心に行っています。初めは決まった大きさに合わせる事が難しく苦手意識を持っていましたが、今ではどの大きさ・折り方でも正確にできるようになりました。また、難しい仕事にもチャレンジするようになり、仕事の幅も広がってきました。「布折り大好き！」と一生懸命取り組んでいます。



お父さんからは「周りの方々から助けられていることを忘れずに」「無理せず出来ることを肩の力を抜いてやっていきましょう」「大人の仲間入りおめでとうさん」などのメッセージをいただきました。

## なるみ作業所

やまもと じゅんや  
山本 純也さん



### 夢に向かって～ドリーム～

天白養護学校時代に作業所での実習を経験し、卒業後、通所して2年目になりました。入所当初は戸惑いも見られましたが、今では班の仲間や職員を意識し、自分の居場所を見つけています。それが一番変わったところです。

日課の散歩も職員の手を引き、みんなと一緒に歩くことが出来るようになったり、給食も毎日完食。苦手な片付けも、食後のお仕事として頑張っています。

これからもさらに信頼を深め、一緒に一つ一つ成長していきましょう。

### 家族からのメッセージ

ひとりでもできることを少しでも増やし、自分らしく生活して欲しいと思います。まわりの人とも仲良く過ごして欲しいです。

## リサイクル港作業所

まつきはじめ  
松木 一さん



### どんどん仕事をおぼえてね。がんばれ、ルーキー

緊急事態宣言が発令され、人が集まる行事が中止になる中、「抱負だけでも皆の前で発表できたら」と考え、朝礼時に広い工場の2階からマイクで発表してもらいました。「新しい仕事を頑張りたい。家族にプレゼントをあげたい。」と元気よく語るスピーチを真剣に聞いていた1階の仲間から大きな拍手がありました。

また松木さんの成長記録やメッセージをまとめたパワーポイントを準備し、ロビーにテレビを設置し、BGM付きで休憩時間に流しました。ソーシャルディスタンスを促しながら、仲間も職員も興味津々で画面を見つめ、「成人おめでとう」「仕事頑張ろうね」と声がかかっていたいました。

これからもたくさんの作業にチャレンジしてください。



## みらいろ

いちやなぎ ひさあき  
一柳 尚毅さん



### いろいろな事にチャレンジしよう!!

1月21日に、段ボールで作成した“羽織袴の顔だしパネル”で記念撮影をしました。自治会主催の全員参加行事の予定でしたが、コロナ禍のため、仲間2人と職員2人が参加し、班でのお祝いとなりました。

一柳さんは2020年8月、みらいろの仲間になりました。慣れない環境のなか行動がとても慎重で、不安そうな表情でしたが、今では人の話に耳を傾け、言葉を返してることが増えました。一度経験した仕事は直ぐに覚え、洗濯物を丁寧に干し、ラベルシールをきれいに貼ります。頼りになる存在です。

今後の目標は「みらいろで仕事をおぼえたい」です。これからも洗濯班と一緒に頑張りたいです。



## あかつき共同作業所

あきた りか  
秋田 理華さん



### 笑顔で楽しくステップアップ♪

いつも明るくステキな笑顔で周囲も笑顔にしてしまう秋田さん。朝、玄関で靴を履きかえていると「おはよう」と声がかかり、自然と仲間たちが集まります。

ウキウキ班では、あかつき開所当時からの大先輩とすぐに仲良くなり、毎日、笑ったり、時には大きな声でアピールしたり、仕事やウキウキ活動を全力で楽しんでいます。

### お母さんからのメッセージ

あかつきに通うようになり、今まで出来ないと思っていたことを自分からやろうとしたり、一人で出来たりして、新たな発見があり、驚きとともに成長を嬉しく思っています。仕事をしたり給料を貰ったり、社会人として普通の経験ができていることに、親として喜びを感じています。